

参加委員から事前にいただいたご意見等

参加委員から事前にいただいたご意見等①

No	分類	参加委員から事前にいただいたご意見等
1	タクシー	<p>○UDタクシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JPNタクシーは都内ではかなり普及し街中でもよく見かけるようになったが、依然として車いすの乗せ方を知らないドライバーが多い。DPIが2023年10月に調査した結果によると、全国での車いすの乗車拒否率は2019年の調査時と比較して都内では減少したものの、東京都以外では増加していた。また、研修を受けていないドライバーも増加しており、乗せ方を知らないことが乗車拒否につながっている。今後乗車拒否がなくなるよう、研修を徹底していただきたい。
2	鉄軌道	<p>○駅ホームと車両間の段差・隙間解消について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都内ではホームドアの設置に合わせて段差と隙間解消も進んでおり、車いすでも駅員にスロープを頼むことなく乗り降りできる駅が増えてとても便利になった。一方で東京都以外ではほとんど整備が進んでおらず、自由に移動できない状況が続いている。今後、東京都以外の駅も計画的に整備を進めていただきたい。
3	トイレ	<p>○バリアフリートイレの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリートイレの設備は評価できる。しかし新築、改築の場合は一般便房の中にも車いすトイレも入れる『簡易多機能トイレ』を設置してほしい。 ・近頃は大型の車いす等様々なタイプの車いすが増えている。個々の身体に合っている為に使用しているのであるから、それに考慮し更に広いいろいろなタイプのバリアフリートイレをつくり、1箇所ではなく複数設けることが必要。 ・商業施設では現在も各階に車いすトイレが設置されていない。その為にトイレを探し、階層を変えるだけで時間がかかる。一般のトイレの隣には必ず設置されているようにしていただきたい。
4	授乳室	<p>○車いす使用者子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者でも出産、育児を行うのは当然である。しかし現在の日本ではそのような考え方に遅れをとっている。車いす使用でも利用できる授乳室はなく、授乳やおむつ交換はできない。そのために外出ができず親同士、家族同士の交流ができず孤立してしまう。 ・羽田空港、新国立競技場の授乳室には車いす使用でも利用できる設備があり、それを見本に新国立競技場に設置された。今後人々が集まるような施設には『車いす使用者子育て家族』という視点を持ち、障害のない家族同様に利用できる授乳室等の設備が必要。

No	分類	参加委員から事前にいただいたご意見等
5	鉄軌道	<p>○駅アナウンスについて・車両の段差隙間の解消</p> <p>・駅アナウンスについてスローカー被害や身体を触られる被害にあったことに対し早急に改善を進めてくださったことに対しお礼を申し上げます。</p> <p>これまでの『車いすのお客様ご案内中』から『乗務員対応中』に変更になってからも係員の『いってらっしゃいませ』『おかえりなさいませ』という言葉が周囲の他客が聞いており、また一緒に乗ったエレベーターの中で下車する駅名を声に出して確認することがある。これでは改善の意味はありません。改めてアナウンスをしない方法を進めてください。</p> <p>・都内の駅では車両の段差と隙間の解消が進んでおり、スロープを頼むことなく利用できるようになった。一方で東京都外では設備が進んでなく、自由に移動ができない。</p> <p>その為に未だスロープを頼まなければ自由に移動ができない。今後は計画をつくり整備を進めていただきたい。</p> <p>段差、隙間の解消ができれば、駅アナウンスも減り障害当事者への被害も減ってくることになる。</p>
6	心のバリアフリー	<p>○心のバリアフリー</p> <p>・未だに駅や施設建物のエレベーターに貼られているポスター等には、心のバリアフリーが『おもいやり』として扱われており、現在各地域の小中学生の行われている障害の体験では、『障害のある人は大変なことがわかった』で終わっている。『障害の社会モデル』を正しく理解するためには当事者を招いてどうして障害者は大変なのか？とその先の議論の場も設け、ユニバーサルデザイン2020行動計画の定義(①社会モデルの理解、②差別の禁止、③多様な障害者への理解)に沿って心のバリアフリーを進めていくことが重要と考える。</p>
7	鉄軌道	<p>○ホーム中央への誘導ブロック敷設による転落防止対策について</p> <p>・一部の視覚障害者から、ホーム中央に誘導ブロックを敷くことで、線路への転落事故防止対策の一助にしようとの動きがあるが、これは、転落事故防止とはならない。</p> <p>なぜなら、それを頼りに歩くだけでは乗車できないからであり、電車に乗るためには、そのブロックを離れて歩き、電車及び乗車口を探さなければならず、その過程で柱などの構造物や乗客等にぶつかって方向を失うなどのことで転落事故につながるからである。また、この対策は、向い側のホームへの電車の進入音を乗ろうとする電車と誤認して起きる転落事故に対して何の対策にもならない。</p> <p>さらに、この対策は、事故防止に最も有効なホームドアの整備を遅らせることにもなるだろう。</p> <p>ホーム中央への誘導ブロック敷設対策が出てくる要因を考えると、国土交通省のホームドア整備支援がなかなか進んでいないことにあると考える。乗客の命を守るという観点から、予算を思い切って投入し、ホームドア整備を飛躍的に進めることが求められていると私は強いお願いしたい。</p>

参加委員から事前にいただいたご意見等③

No	分類	参加委員から事前にいただいたご意見等
8	信号機	<p>○音響式信号の必要性について—高度化PICSとの関連で</p> <ul style="list-style-type: none">・横断歩道を安心して利用するには、信号機の場所、青信号であること、渡る方向がわかることが重要であり、この情報を提供するものが視覚障害者付加装置(歩行者用信号の青時間帯に音を出して横断歩行者に知らせるもの)である。 <p>その一方で、数年前に起きた、東京の駒込駅前での視覚障害者の横断中の死亡事故を受けて、高度化PICSが開発され、警察が設置を推進したことから一定程度普及している。しかし、高度化PICSは青信号であることを教えるが、スマホから音が出るので、信号機の場所及び渡る方向を教えない。よって同機は、視覚障害者付加装置にかわるものではないことを、警察をはじめとする行政・関係者が認識する必要がある。</p>